

1月1日時点の就職意識調査

就職活動本番を2カ月後に控えた1月1日時点で、学生の準備状況はどうなっているだろうか。就職意識および就職活動の状況などを尋ねた。前年同時期調査との比較や昨年11月に実施した前回調査からの変化に着目して分析したい。

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「将来性がある」47.9%、「給与・待遇が良い」37.3%、「職場の雰囲気が良い」36.3%の順
- 「給与・待遇が良い」は前年度(23.5%)から大幅増

2. 就職活動準備に関して

- 「学内ガイダンスに参加」77.0%、「自己分析」74.2%、「業界研究・企業研究」71.1%
- 前年度の11月調査(就職活動解禁前調査)とほぼ同水準に

3. 1月1日時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」24.2%。11月調査より5.8ポイント増。
「決まっていない」は19.9%
- 志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「医薬品・医療関連・化粧品」

4. 1月1日時点での内定状況

- 「内定を得ている」1.7%、「選考中の企業がある」13.2%

5. ベンチャー企業への関心

- ベンチャー企業への就職に関心があるのは、全体の2割強(25.3%)
- 関心がある理由は「企業として独自の強みがある」40.9%、「若いうちに実力を付けたい」39.8%、「企画力・オリジナリティに優れている」38.8%

6. SNSの利用状況

- 「LINE(ライン)」利用者が約9割(91.6%)。「Facebook」67.7%、「Twitter」67.2%など

7. 「雰囲気がよい」と感じる職場

- 「役職や年齢に関係なく自由に物が言える」64.0%、「ワークライフバランスを重視している」59.9%、「部門間の交流やコミュニケーションが盛ん」56.0%

《調査概要》

調査対象 : 2016年3月卒業予定の全国の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
 回答数 : 1,460人(文系男子422人、文系女子449人、理系男子371人、理系女子218人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2015年1月1日~1月7日
 サンプルング : 日経就職ナビ2016 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

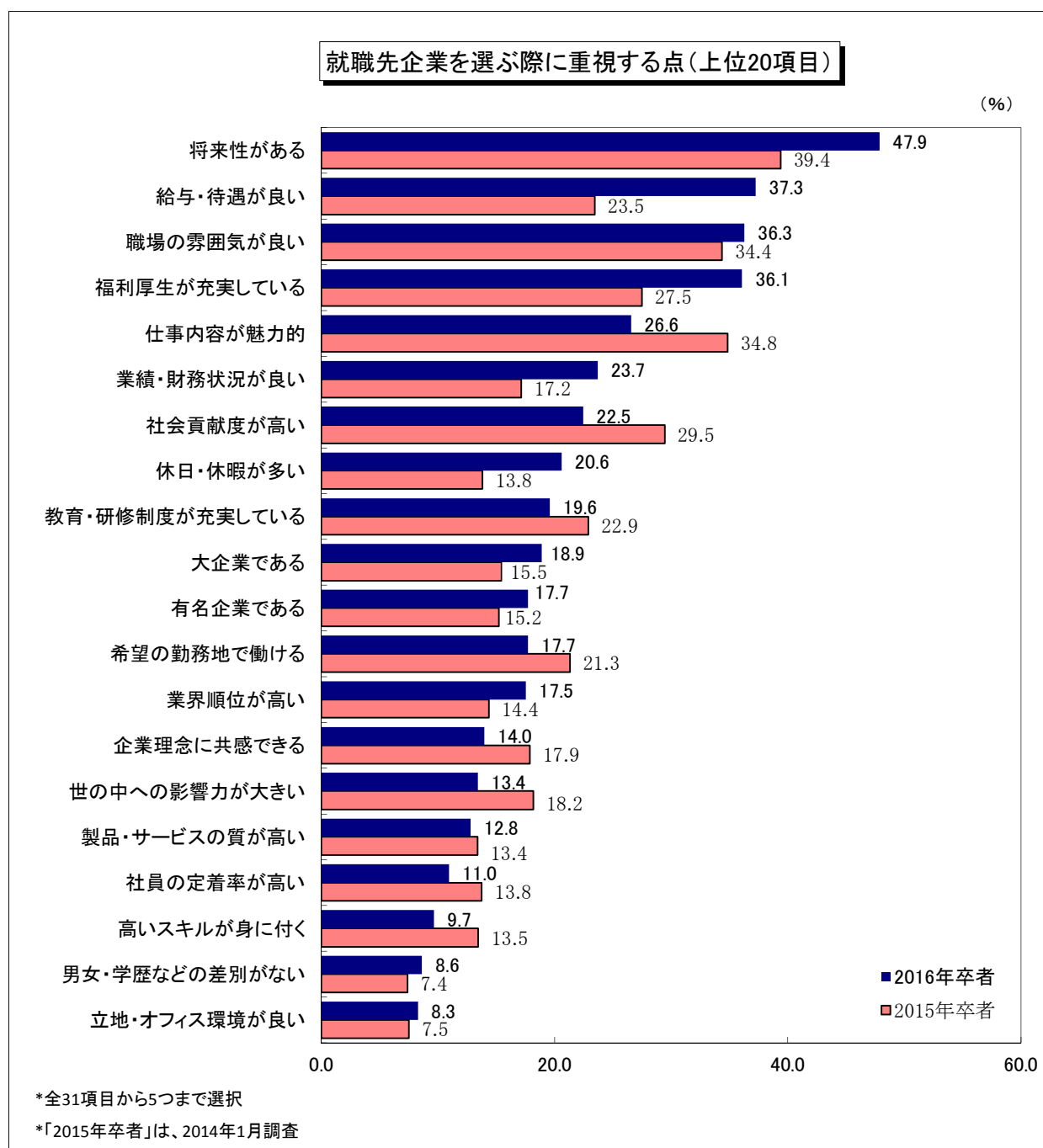
「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらったところ、最も多かったのが「将来性がある」の47.9%。前年同期調査(39.4%)より8.5ポイント増えた。次いで「給与・待遇が良い」が37.3%で、前年同期調査(23.5%)より13.8ポイント増と大きく増加している。他に大きくポイントを上げているのは、「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」などの労働条件に関連する項目であり、ブラック企業への警戒感などから安心して働ける環境にこだわる傾向が表れているようだ。

一方、前年同期調査で2位の「仕事内容が魅力的」は34.8%から26.6%へと8.2ポイント減り、また「社会貢献度が高い」は29.5%から22.5%へと7.0ポイント下がった。

ただし、3月以降、就職活動が本格化していく中で、重視する点は変化していく可能性がある。

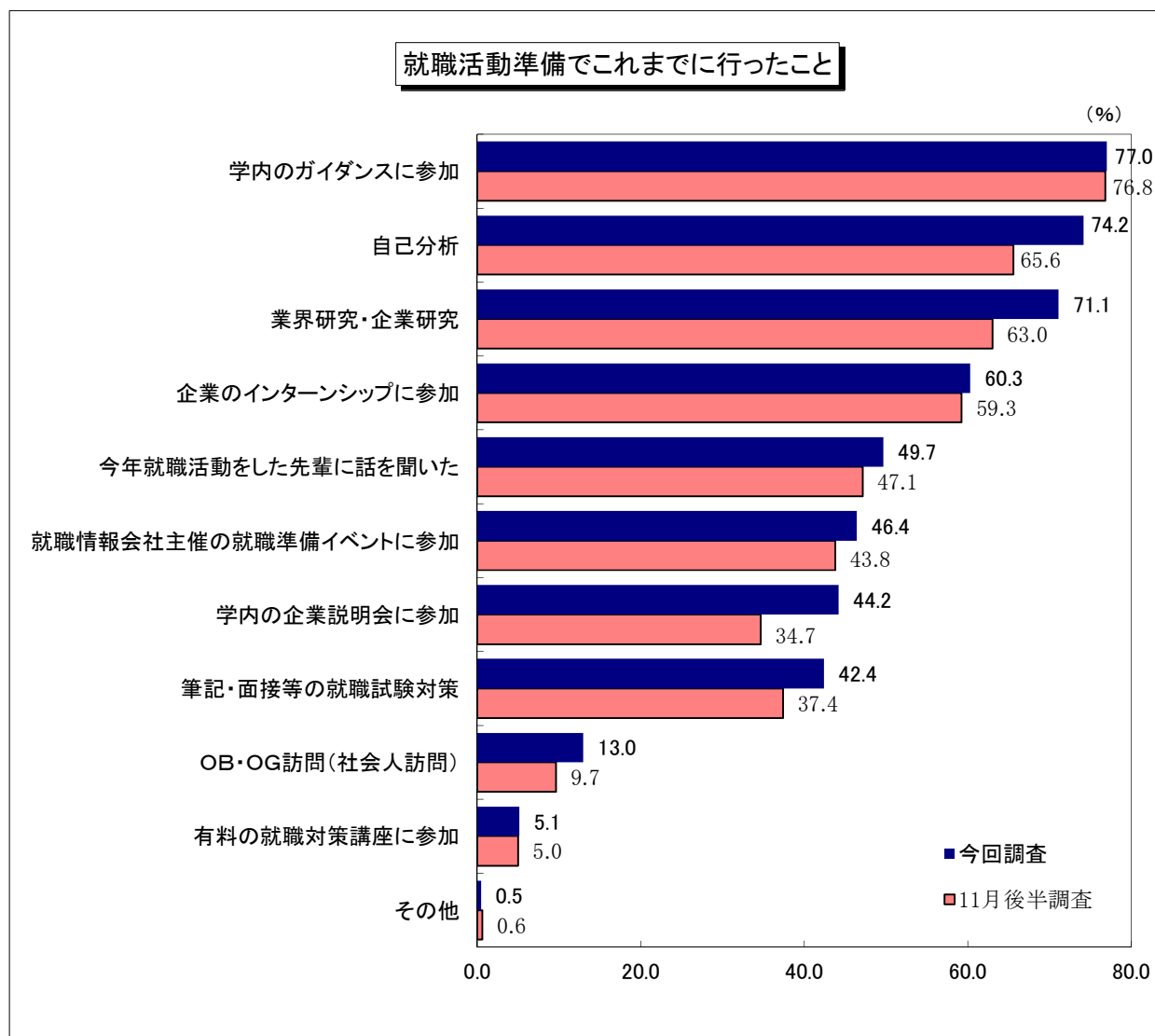


2. 就職活動準備に関して

1 月 1 日時点で就職活動の準備を始めたと回答した学生は全体の 98.8%で、11 月の前回調査と変化はなかった。

準備の内容は、「学内のガイダンスに参加」77.0%が最も多かった。次いで「自己分析」74.2%、「業界研究・企業研究」71.1%と続く。11 月調査からの増加幅は、「自己分析」が 8.6 ポイント、「業界研究・企業研究」は 8.1 ポイントと大きかった。なお、これら上位 3 項目は、前年度の 11 月後半調査（就職活動解禁直前調査）では「学内のガイダンスに参加」76.1%、「自己分析」75.7%、「業界研究・企業研究」71.7%となっており、今回調査でこれとほぼ同じ水準に追いついた。

「学内の企業説明会に参加」は 44.2%で前回調査から 9.5 ポイント増、「筆記・面接等の就職試験対策」42.4%で同 5.0 ポイント増など、就職活動解禁に向けて着々と準備している様子が見える。



3. 現時点での志望業界

1 月 1 日時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という学生が最も多く、55.9%。「明確に決まっている」学生は11月調査(18.4%)より5.8ポイント増の24.2%で、就職活動準備が徐々に進んでいることがわかる。

志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が21.1%で最も多く、次いで、「水産・食品」20.9%、「医薬品・医療関連・化粧品」19.7%と続く。上位3業界の顔ぶれは11月調査と変動はないが、1位と2位が入れ替わった。

文理男女別にみても、11月調査と大きな変動はなく、文系は男子が「銀行」、女子は「マスコミ」が首位で、理系は男子が「電子・電機」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。

1 月時点での志望業界の決定状況

	全体	(11月後半調査)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	24.2	18.4	23.7	18.5	29.6	28.0
なんとなく決まっている	55.9	58.5	53.8	52.8	59.8	59.6
決まっていない	19.9	23.1	22.5	28.7	10.5	12.4

1 月時点での志望業界 (上位 20 業界)

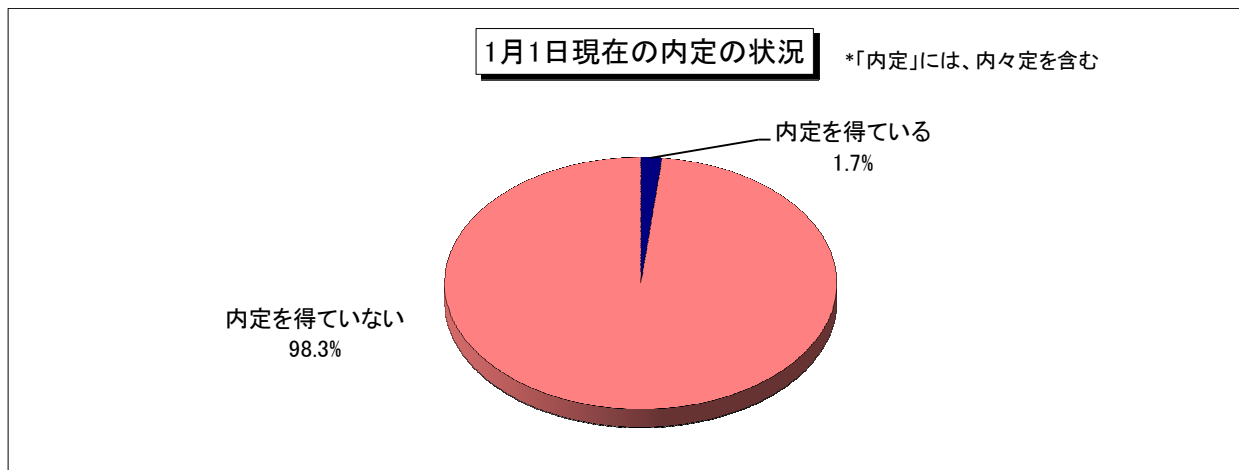
全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行② 21.1	銀行 37.0	マスコミ 27.5	電子・電機 29.2	医薬品・医療関連・化粧品 48.2
2	水産・食品① 20.9	商社(総合) 23.9	銀行 25.6	機械・プラントエンジニアリング 24.7	水産・食品 42.4
3	医薬品・医療関連・化粧品③ 19.7	調査・コンサルタント 19.6	商社(総合) 21.3	素材・化学 23.8	素材・化学 38.7
4	素材・化学④ 18.7	マスコミ 18.7	水産・食品 18.1	自動車・輸送用機器 23.2	官公庁・団体 19.4
5	官公庁・団体⑦ 16.8	運輸・倉庫 16.5	ホテル・旅行 17.2	エネルギー 22.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.2
6	商社(総合)⑥ 16.2	官公庁・団体 16.5	官公庁・団体 17.2	医薬品・医療関連・化粧品 21.7	情報・インターネットサービス 15.7
7	マスコミ⑤ 15.4	保険 15.9	運輸・倉庫 14.1	精密機器・医療用機器 20.5	精密機器・医療用機器 15.7
8	電子・電機⑨ 13.7	建設・住宅・不動産 15.6	医薬品・医療関連・化粧品 12.5	水産・食品 16.6	電子・電機 10.5
9	情報・インターネットサービス⑨ 13.4	水産・食品 15.3	商社(専門) 12.5	情報・インターネットサービス 16.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 9.9
	調査・コンサルタント⑧ 13.4	商社(専門) 14.1	調査・コンサルタント 12.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.3	エネルギー 9.4
11	エネルギー 13.3	情報・インターネットサービス 14.1	保険 11.6	官公庁・団体 15.4	マスコミ 9.4
12	運輸・倉庫 12.2	エネルギー 13.1	教育 10.0	調査・コンサルタント 12.7	印刷・パッケージ 7.9
13	建設・住宅・不動産 11.5	素材・化学 10.4	素材・化学 10.0	建設・住宅・不動産 12.3	銀行 7.9
	自動車・輸送用機器 11.5	通信関連 9.5	エンターテインメント 9.4	運輸・倉庫 11.4	建設・住宅・不動産 7.9
15	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.1	自動車・輸送用機器 8.9	印刷・パッケージ 9.1	通信関連 11.4	農業・林業・鉱業 7.9
16	機械・プラントエンジニアリング 11.0	証券・投信・投資顧問 8.6	信用金庫・労働組合 9.1	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 10.5	鉄鋼・非鉄・金属 7.3
17	精密機器・医療用機器 10.9	信用金庫・労働組合 8.6	建設・住宅・不動産 8.8	商社(総合) 10.5	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 6.8
18	商社(専門) 9.3	電子・電機 8.6	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 8.4	鉄鋼・非鉄・金属 9.0	調査・コンサルタント 6.3
	保険 9.3	医薬品・医療関連・化粧品 8.3	情報・インターネットサービス 8.4	銀行 8.7	自動車・輸送用機器 5.8
20	通信関連 8.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 8.0	人材紹介・人材派遣 7.2	保険 5.4	通信関連 5.8

※○の中の数字は2014年11月後半同調査の全体順位10位以内

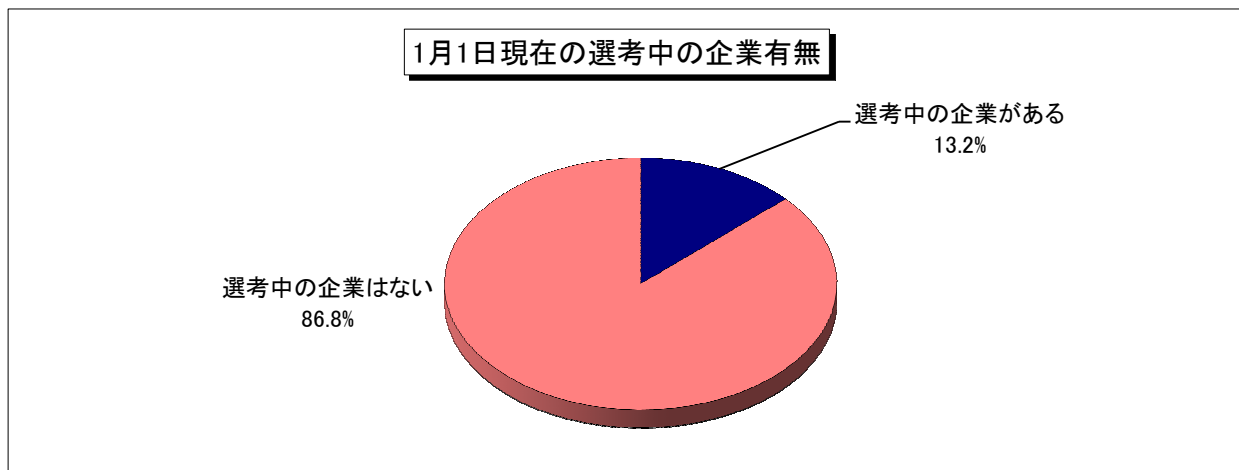
4. 現時点での内定状況

内定状況について尋ねたところ、「内定を得ている」との回答が 1.7%で、割合としては少ないものの、年内のうちに内定を得た学生がいることが確認できた。筆記試験や面接などの「選考中の企業がある」という学生は 13.2%。選考中の企業数は平均して 1.6 社と決して多くはないが、早くも選考ベースにのっている学生が 1 割を超えた。

ちなみに前年度の 1 月調査では 37.0%の学生が選考中で、「筆記・WEB 試験」の受験率が 31.3%で、「面接試験」12.6%、「グループディスカッション」15.0%だった。



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得ている	1.7%	2.1%	1.1%	2.4%	0.9%
内定を得ていない	98.3%	97.9%	98.9%	97.7%	99.1%
内定社数 (平均)	1.4社	1.6社	1.2社	1.2社	1.5社



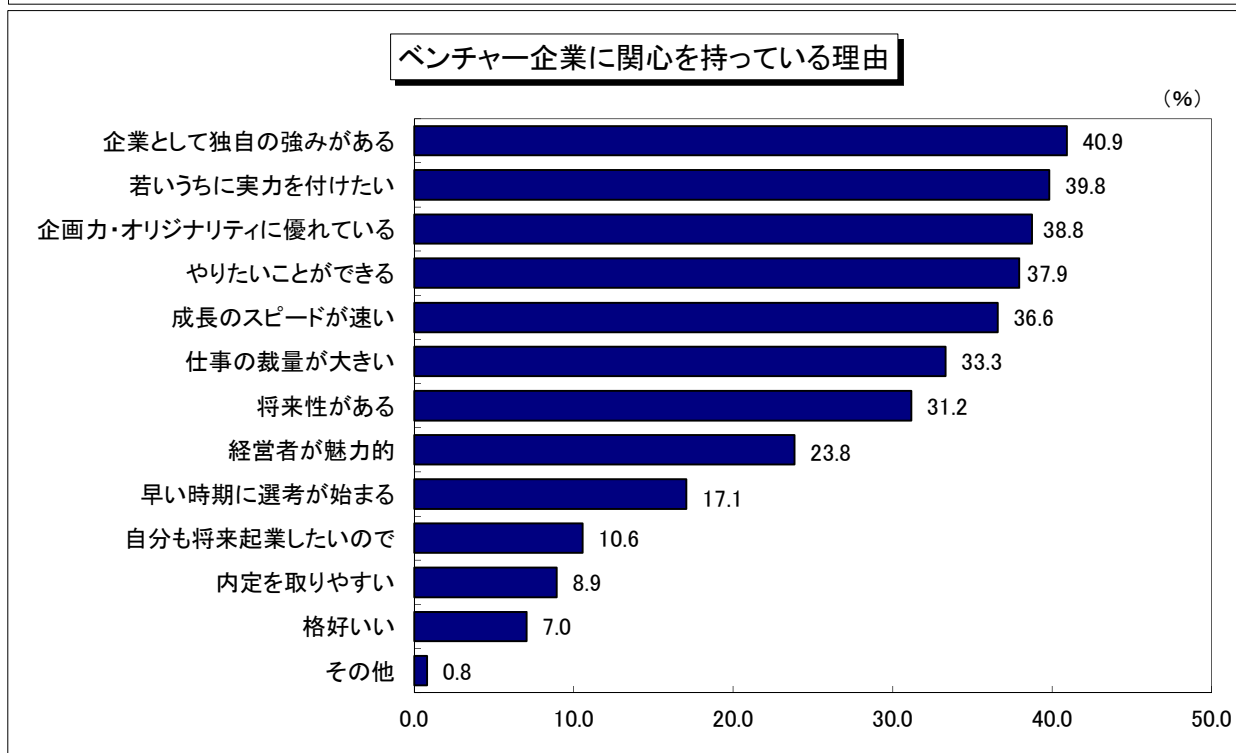
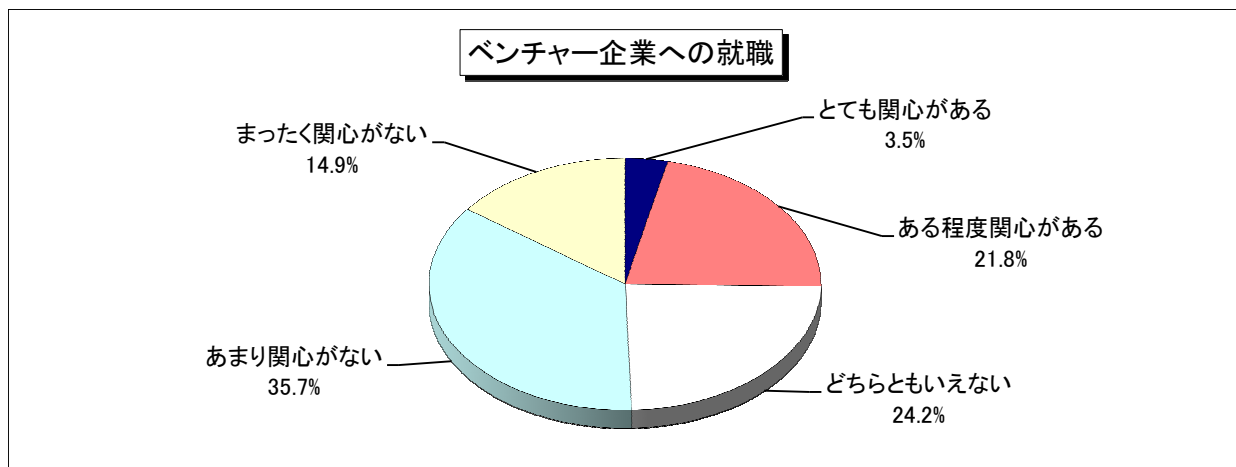
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
選考中の企業がある	13.2%	15.6%	12.7%	10.8%	13.8%
選考中の企業はない	86.8%	84.4%	87.3%	89.2%	86.2%
選考企業社数 (平均)	1.6社	1.7社	1.5社	1.5社	1.5社

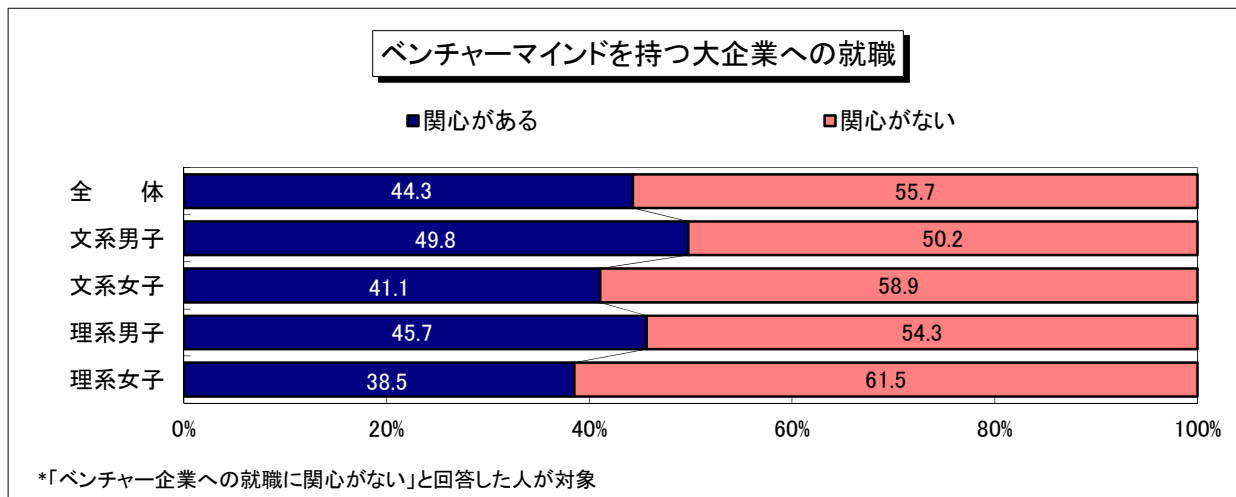
5. ベンチャー企業への関心

就職先としてのベンチャー企業への関心度合いを尋ねた。「とても関心がある」(3.5%)、「ある程度関心がある」(21.8%)は、合わせて25.3%と全体の4人に1人だった。

ベンチャー企業への就職に関心を持っている学生に、その理由を重ねて尋ねた。上位5項目の数値に大きな差はなく、「企業として独自の強みがある」(40.9%)、「若いうちに実力を付けたい」(39.8%)、「企画力・オリジナリティに優れている」(38.8%)、「やりたいことができる」(37.9%)、「成長のスピードが速い」(36.6%)などが挙げられた。早くから活躍できる環境や成長できる場所を求める学生にとっては、ベンチャー企業は魅力的なのかもしれない。

就職先としてベンチャー企業に「関心がない」と回答した学生に、ベンチャーマインドを持つ大企業への就職には関心があるかどうかを尋ねた(グラフ次ページ)。「関心がある」は44.3%だった。先のベンチャー企業に関心のある層と合わせると、ベンチャーマインドのある企業への関心は6割近くにのぼる。チャレンジを恐れない姿勢に共感を覚える学生が過半数と解釈することもできる。

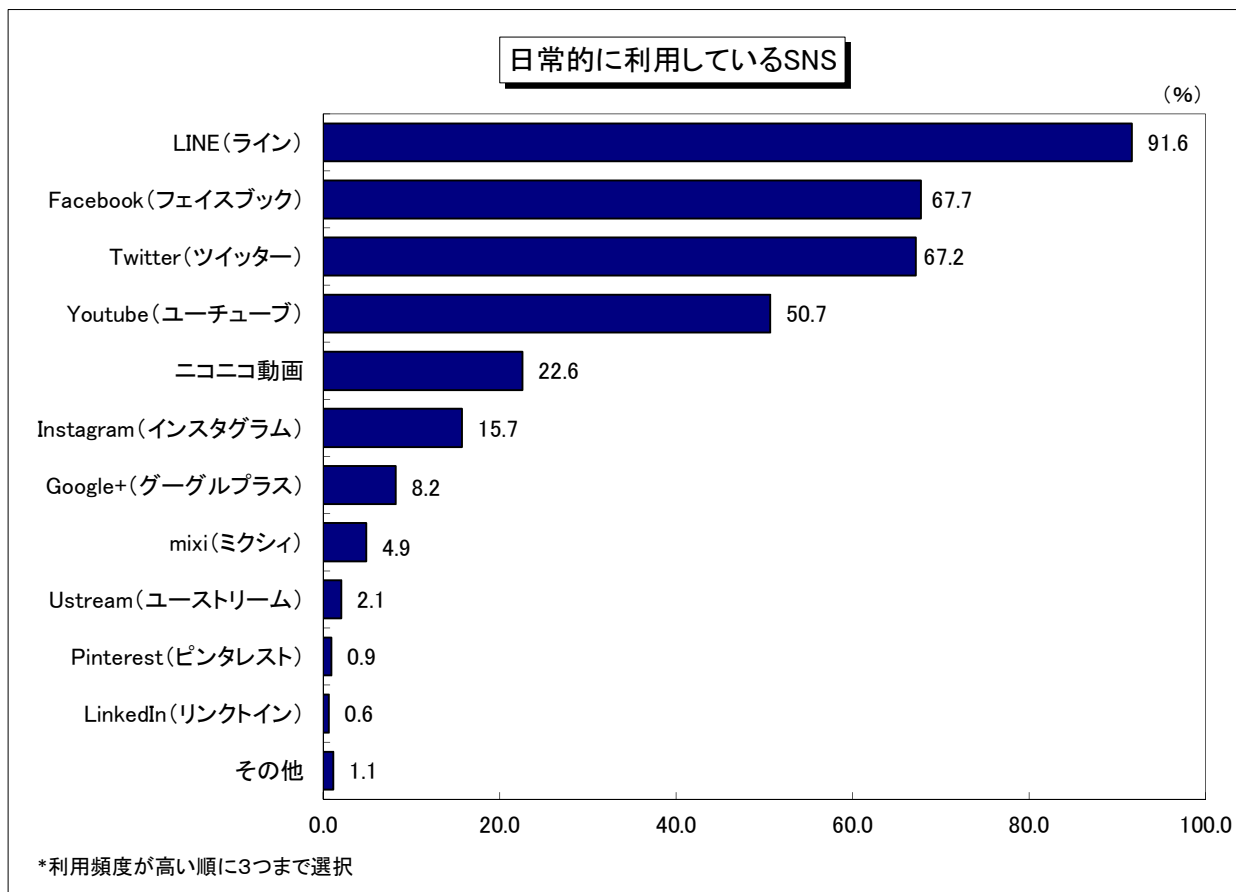




6. SNS の利用状況

SNS の利用状況について尋ねた。最も利用度が高いのは「LINE (ライン)」(91.6%) で、約 9 割が利用していると回答した。次いで、「Facebook (フェイスブック)」(67.7%)、「Twitter (ツイッター)」(67.2%) と続いた。このほか、動画配信サービスの「Youtube (ユーチューブ)」が 50.7% と比較的利用率が高かった。スマートフォンとの親和性が高いサービスがよく利用されており、スマートフォンは大学生にとって生活の必須アイテムになっていることが裏付けられた (「11 月後半調査」スマートフォン保有率 93.1%)。

上位 3 項目についてはいずれも女子の利用率が高く、男子は動画配信サービスの「ニコニコ動画」の利用率が高かった。

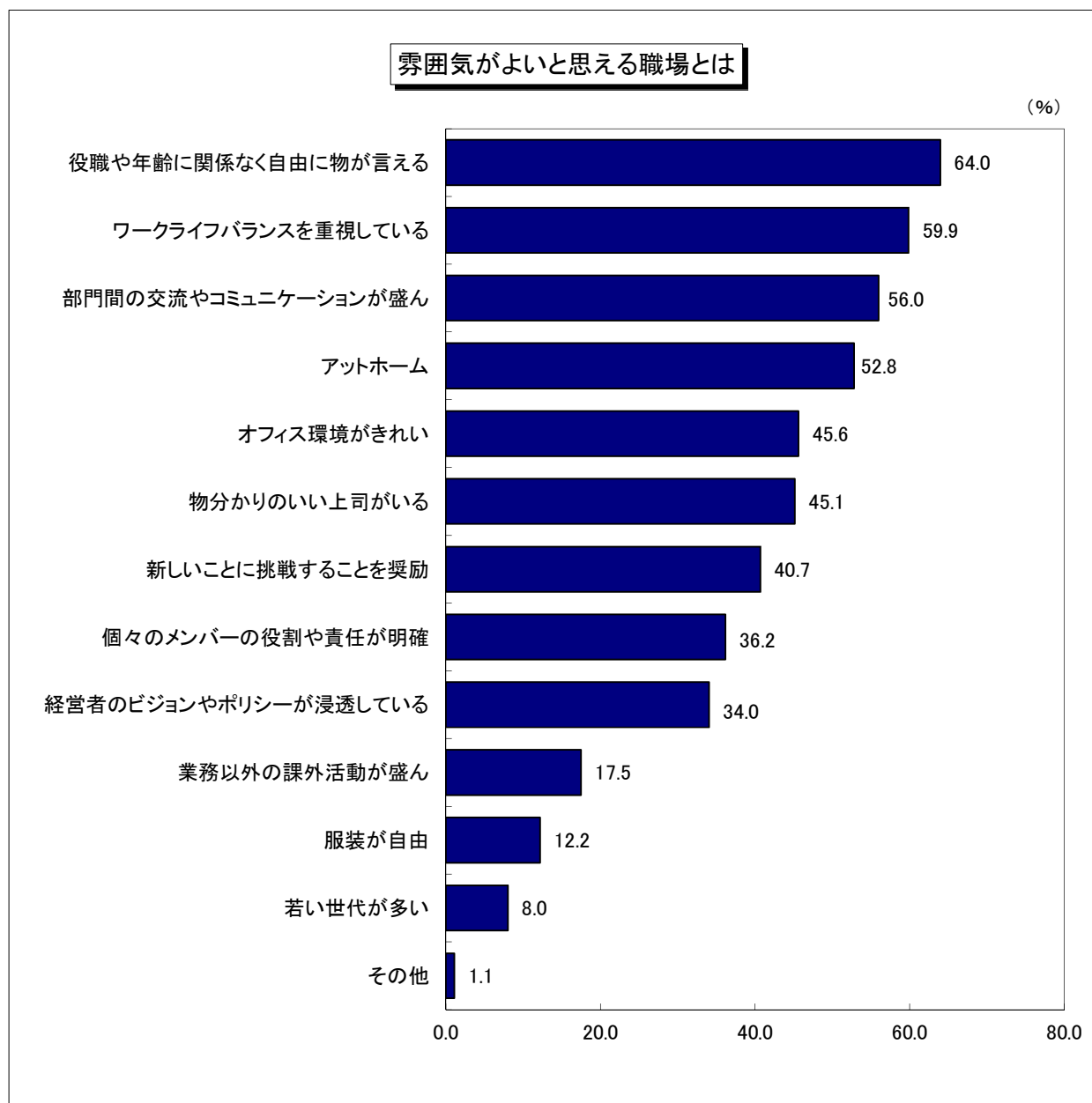


7. 「雰囲気がよい」と感じる職場

「職場の雰囲気がよい」ことは、学生が就職先企業を選ぶ際に重視する点で毎年上位に挙がる(2 ページ「1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点」参照)。そこで、「雰囲気がよい」と感じる職場について尋ねた。最も多くが選んだのは「役職や年齢に関係なく自由に物が言える」(64.0%)。次いで「ワークライフバランスを重視している」(59.9%)、「部門間の交流やコミュニケーションが盛ん」(56.0%)、「アットホーム」(52.8%)、「オフィス環境がきれい」(45.6%)、「物分かりのいい上司がいる」(45.1%)と続く。風通しがよく、コミュニケーションをとりやすい職場を求める学生が多いようだ。

男女差が大きかったのは「ワークライフバランスを重視している」や「アットホーム」な職場で、女子は男子の2倍にのぼった。

「服装が自由」(12.2%)や「若い世代が多い」(8.0%)などは低く、これらの項目は職場の雰囲気を左右するものとは捉えられていないようだ。



■就職活動に関して思うこと

- インターンシップでほぼ内定が決まるという話もあるので、3月解禁だからといって油断はできないと感じる。とにかく情報がなければ行動の計画もできないので、セミナーやインターンの情報をより多く知りたいと思う。
 <文系男子>
- 短期決戦となるため、希望する業界の企業をいくつも受けることができなくなるのではないかと。また、インターンに応募する必要性も増加したため、実質的に就職活動にかかる時間はのび、修士論文に手が回らなくなりそうでかなり不安である。
 <理系女子>
- 就活自体は長期化し、学生がレベルを高めてくると思うので、戦線は厳しいものになると感じている。
 <文系男子>
- 首都圏から離れた場所からの就職活動は、首都圏に住む学生と比べて金銭的にも時間的にも負担が大きくなり、十分な活動が行えるのか不安になることが多々あります。説明会や面談会などのイベントは、もっと地方にも来ていただきたいと思っています。
 <理系男子>
- 当初の予想どおり、就職活動によって勉強がおろそかになってしまいました。時期が遅くなったことでインターンが増え、授業に出ないで面接に臨むこともしばしばで、少し疲れてしまいました。最後まで頑張れるか不安です。
 <文系男子>
- 選考が始まる時期には M2 のため、身近に就活を経験した先輩がおらず、ES を見てもらったり相談する機会が減ってしまうのではないかと心配しています。同期に相談するのもいいですが、やはり就活経験者が近くにいる環境がないのは少し不安です。
 <理系男子>
- インターンシップと勉強のバランスをとるのが難しい。冬のインターンシップに参加しないことが就職活動本番に不利に働かないか不安。
 <文系女子>
- 冬のインターンを開催する企業が思った以上に多かった。研究をしなくてはならないが、インターンに参加せず出遅れるのも嫌。参加すべきかどうか迷っている。今の時期に何をどれだけやるべきかわからず、就職活動全体が不安である。
 <理系女子>
- 実際の企業の採用活動と、大学が提示する就職活動についての内容に差があるのは問題だと思う。
 <文系男子>
- 大学のキャリアセンターの説明会では、3月に向けて準備するように言われたのでそのつもりで準備してきました。しかし、実際は多くの企業がほぼ去年と変わらないスケジュールで動いていると感じており、正直困惑しています。
 <文系男子>
- 就活解禁は先延ばしになったが、実際はインターンシップへの参加が始まっている時点である意味就活解禁なのだと感じた。就活解禁という言葉にとらわれずに、コツコツと進めていきたい。
 <文系女子>
- 企業の情報そのものについても知りたいが、社会人と、仕事のことやそれ以外のことを話せる機会が多くほしいと感じる。
 <文系女子>
- 社員の生活を見られるような（プライベート含む）イベントがあると良いと思います。
 <理系男子>
- 女性は結婚や出産など先のことも考えて就活をした方がいいのか。相手が転職が多そうな仕事だったら自分はどんな仕事を選ぶべきなのか。自分の理想の職業形態等につけるのか不安。
 <文系女子>
- 国際学会に提出する論文の関係で 1 カ月就活のことを考えられていない状況をもどかしく感じる。冬のインターンはアルバイトの関係で 1 週間など長期であるものは不可能なので、2 日間などの内容であれば出てみたい。就職活動を 1 番に優先できないことを言い訳にしたくないが、今の環境を捨てる踏ん切りがつかなくて不安だ。
 <理系男子>
- 就職という枠にとどまらず、自分の人生について考える良い機会だと思う。大変なことは多いと思うが、後悔しないように進めていきたい。
 <文系女子>
- 今の就職活動は、多くの企業を受けるべきみたいな風潮がありますが、本当に行きたいところを数社だけ受けられたらなあと思います。
 <理系女子>